

植物多様性センターの「仮頂芽って何？」

普通、枝のてっぺんの芽を頂芽と呼びますが、てっぺんについていても、ほんとうは頂芽ではない芽があります。それが仮頂芽です。国内の広葉樹のおよそ三分の一の種類が仮頂芽をつけるといわれています。かつて植物が暖かい地域から分布を広げる過程で、落葉性などとともに身につけた寒さに適応するための仕組みのひとつと考えられています。園内で見られる仮頂芽をつける植物のいくつかをご紹介します。



カツラ: 対生する植物のなかには仮頂芽をつけるものがある



ヤマブキ: 枝の先端が枯れて、頂芽が萎縮退化した例



クリ: 仮頂芽のすぐ下の落葉の痕、半月型の葉痕



クリ: 葉痕の反対側には小さな丸い枝の痕(枝痕)を残す